

令和6年度 中部版スクラム教育事業

「第2回生徒指導担当者研修会」

令和6年8月19日(月)、中部総合事務所講堂にて標記研修会を開催しました。今年度より、年2回の開催とし、第2回は「不登校支援」を主テーマとして研修を行いました。

不登校支援に係る羽合小学校の取組紹介やいじめ・不登校総合対策センターの澤次長の講義から、参加者それぞれが子どもに寄り添った支援のあり方について学びを深める貴重な機会となりました。また、グループ協議を通して、不登校支援における各校の取組や今後の支援のあり方について校種の垣根を越えて活発な意見交換がなされました。2学期以降の子どもたちへの関わりや支援のあり方について多くのヒントや情報を得ることができました。

参加者の振り返りをいくつか紹介します。

- 「背景に目を向けると『指導』ではなく『支援』が必要になってくる」「背景に対して具体的にどのような支援をしているか」という言葉が心に残った。子どもたちに対して「敬意」を持って接することが生徒指導の根幹であり、その具体的な支援の方法の1つに特別支援があるのだろうと感じた。
- 子どもは「つらさ」「悲しみ」を心の底に沈める。子どもはいつも一生懸命に取り組んでいる。学校ができることは何かと考えたとき、子どもの心にまず寄り添うこと、気持ちに共感すること、心配しているよという思いを伝えること、安心できるきちになる努力をすることかなと思う。気になる子どもや保護者に声をかけ、相手の負担にならない範囲で話したり聞いたりしたい。SCとの橋渡しも必要に応じて勧めたい。
- 自傷行為に対するサポート、子どもと保護者はセットで考えつらさに寄り添うこと、自分や学校での取組について自己満足で終わらせないために評価すること等を学んだ。内面に想いを馳せた寄り添い方、頑張っている事を評価すること、肯定的な優しい雰囲気づくりの大切さを学校全体で共有し実践していきたい。
- 学校にくることが難しい児童やその保護者が、見えない努力やつらさを抱えていることを踏まえ、適切な支援をしていきたい。

